

第23回ペプチドフォーラム

『ペプチド・タンパク質の革新的化学修飾法による ケミカルバイオロジー・創薬への挑戦』

参加費無料

日時:2017年1月18日(水) 受付開始:12:00~

会場:東京大学 薬学系総合研究棟10階会議室(本郷三丁目駅から徒歩約5分)

(http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_10_02_j.html)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

主催:日本ペプチド学会、東京大学大学院薬学系研究科・薬学部

共催:日本薬学会、日本化学会

オーガナイザー:相馬洋平(東大院薬)、後藤佑樹(東大院理)

ペプチド・タンパク質を自在に化学修飾することができれば、医薬化学、バイオマテリアル、構造生物学、ケミカルバイオロジーの進展に大きく貢献できる。ケミカルライゲーションに代表される収束的な合成法は、信頼性の高い方法論として確立しているが、今なお挑戦的な基質も存在する。もう一つには、生体共役型の反応(bioconjugation)が挙げられるが、特に天然型アミノ酸残基を標的とするペプチド・タンパク質の生体共役反応は、生体条件適合性(中性 pH、室温程度、水系反応等)をもって、化学選択性・官能基選択性を実現する必要があり、反応開発難度が高い。今回、ケミカルライゲーションおよび生体共役反応を基盤に、ペプチドに関連するケミカルバイオロジー、医薬化学研究を進めている先生方に話題を提供いただき、ペプチドの更なる可能性・新たな方向性を考える契機としたい。

プログラム

- | | | |
|-------------|--|-------------------|
| 13:00~13:05 | 挨拶 | |
| 13:05~13:40 | アミロイド構造を区別して酸素化する光触媒の開発 | 相馬洋平(東大院薬) |
| 13:40~14:15 | O-GalNAc修飾をもつO-結合型糖タンパク質の化学合成 | 岡本亮(阪大院理) |
| 14:15~14:30 | ~休憩~ | |
| 14:30~15:05 | 有機ラジカルを用いた化学選択的タンパク質変換法の開発 | 生長幸之助(東大院薬) |
| 15:05~15:40 | 試験管内人工生合成系を用いた擬天然物ペプチドの創製 | 後藤佑樹(東大院理) |
| 15:40~15:55 | ~休憩~ | |
| 15:55~16:30 | 局在性リガンドによる細胞シグナル制御 | 築地真也(名古屋工業大) |
| 16:30~17:15 | Discovery and Application of Ultrafast Inteins | Tom Muir(プリンストン大) |
| 17:15~17:20 | 挨拶 | |

参加登録:参加をご希望の方は1月12日(木)までに、事務局宛にメールにてご登録ください
(当日参加可)。

【事務局】東京大学大学院薬学系研究科有機合成化学教室内
Tel : 03-5841-1805 E-mail : ysohma@mol.f.u-tokyo.ac.jp